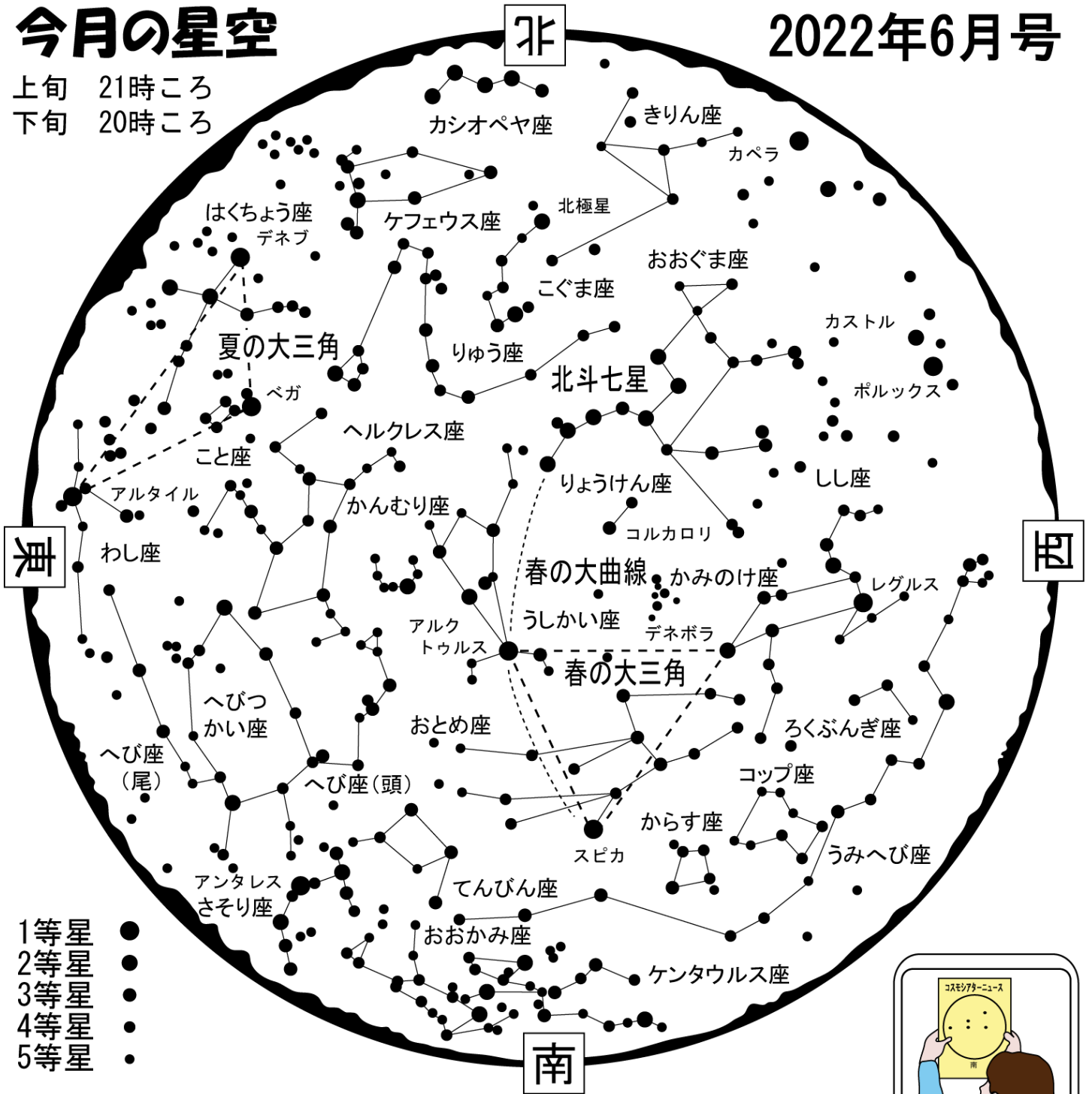


コスモシアターニュース

今月の星空

2022年6月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



水星：中旬以降の明け方、東の低い空に見えます。明るさは0~1等星です。
金星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-4等星です。26日~27日に、月と並んで輝きます。
火星：明け方前、東の空に見えます。明るさは0.5等星です。23日の明け方前、月と並んで輝きます。
木星：明け方前、東の空に見えます。明るさは-2等星です。22日の明け方前、月と並んで輝きます。
土星：真夜中すぎに、南東の空に見えます。明るさは0.5等星です。19日の未明、月と並んで輝きます。

今月の月の満ち欠け

上弦：7日(火) 満月：14日(火) 下弦：21日(火) 新月：29日(水)

自分の向いている方向を下にして、見てください

14日(火)、ストロベリームーン

6月の満月を、ストロベリームーンと呼びます。このころに、イチゴの収穫時期を迎えるから、高さが低く、大気の影響で、いつもより赤く見えることが多いなどの、理由があるそうです。6月の空は梅雨の時期で、水蒸気が多く、空がぼんやりと白くなるが多くなります。このため、月もぼんやりと見えるが多くなります。さて、今年のストロベリームーンはどんな色に見えるのでしょうか？ 月の色が変わって見えるのは、昇り始めの20時から20時30分ころです。月が空高く昇ると、白色になるので、21時ころまでがチャンスです。月の見える方向は、東南東の空です。高さが低いので、見晴らしがよい所でご覧ください。

22日(水)、木星が月と並んで輝く

22日(水)の午前1時ころ、東から月が昇ってきます。この月のすぐ上に注目すると、明るい星が見えます。この星が木星です。木星は大変明るい星ですので、肉眼でも簡単に見えます。ただし、午前1時ころは高さが低いので、午前2時くらいまで待ったほうがいいでしょう。そして、朝焼けが始まる、午前4時ころまでが、見ごろとなります。

26日(日)～27日(月) 明け方、月と金星が並んで輝く

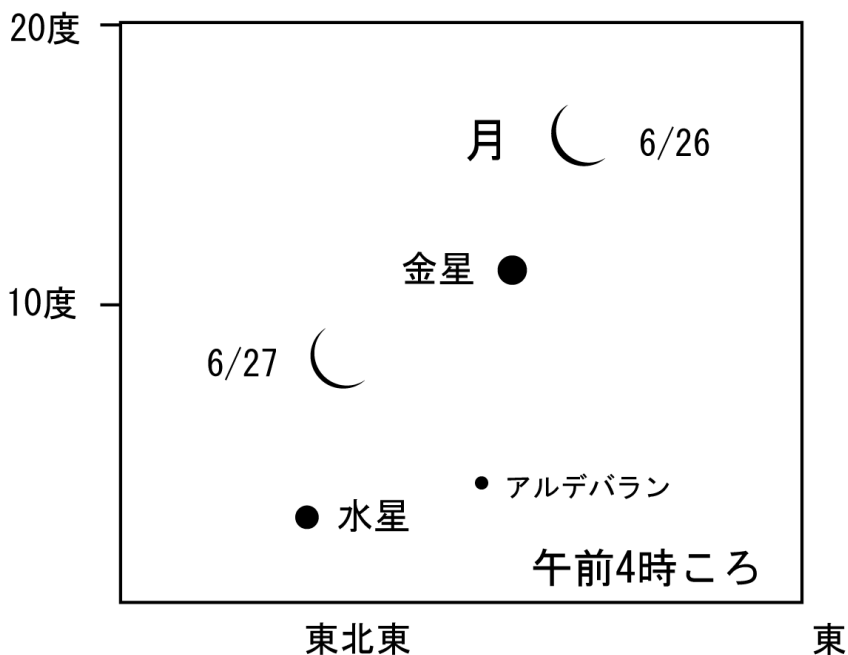
明け方の空に、たいへん明るい金星が輝いています。このように、明け方見える金星を、明けの明星とよびます。明けの明星・金星は、午前3時すぎに昇り、空が明るくなる午前4時30分ころまで、東の低い空に見えます。

見え始めは、高さが低いのですが、しだいに高さが高くなり、午前4時ころが見ごろとなります。ただし、まだ高さが低いので、東方向に障害物のないところで見ることがあります。

さて、そんな明るい明けの明星・金星に月が接近し美しい眺めとなります。

まず、26日(日)、月の左下に金星が輝きます。そして、27日(月)は、月が金星の左下に移動します。見やすい時間は、午前4時ころになります。

ところで、天気恵まれると、27日の月の下に星が見えるかも知れません。月のまっすぐ下にある星が、水星になります。ただ、高さが大変低いので、午前4時20分ころまで待って、双眼鏡で探す方がいいでしょう。また、双眼鏡があれば、水星の少し右のおうし座のアルデバランも見えるかも知れません。なお、水星の明るさは0等星、アルデバランの明るさは1等星で、金星よりかなり暗く見える星です。



春の星空のみどころ

6月になっても、まだ、夏より春の星が南の空高く輝きます。右の図は21時ころ、南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。春の星座の中で最も明るい星が、うしかい座のアルクトゥルスです。この星は、21時ころ南の空高く見えています。

このアルクトゥルスを目印に、南の空を眺めると、右下におとめ座のスピカ、右側にしし座のデネボラが見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、春の大三角が完成します。なお、三角の星の中で、デネボラは少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。いっぽう、北の空には、北斗七星が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、春の大曲線と呼びます。春の大曲線の途中のアルクトゥルスとスピカは、明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。

最後に、春の大曲線をさらに右に伸ばすと、からす座の星の並びにぶつかります。4つの星はあまり明るくはありませんが、比較的見つけやすい星の並びになっています。

